

OUJ神奈川学習センター ふゆだより

通巻第77号

2019年1月24日発行

発行:放送大学神奈川学習センター

〒232-8510 横浜市南区大岡2-31-1

url: <http://www.sc.ouj.ac.jp/center/kanagawa/>

tel:045-710-1910 fax:045-710-1914



破崎緑地から横須賀市街と富士山を望む(8ページに関連記事)

目次	哲学から国際金融へ	客員教授 上川 孝夫	2 ~ 3
	面接授業が変わります！／放送教材の郵送貸出し		4
	ゼミ・研究会紹介「地球科学ゼミ(有馬ゼミ)」		5
	Kーサポートからのお知らせ		5
	平成30年度学生研修旅行		6 ~ 7
	地域連携ウォーキング		8 ~ 9
	学生生活に関するアンケート		10 ~ 11
	学生サークルからのお知らせ／同窓会だより		12 ~ 13
	神奈川学習センター開講ゼミ・研究会一覧		14
	放送教材貸出申込書様式		15
	神奈川学習センターからのお知らせ		16

神奈川(みなとみらい)



哲学から国際金融へ

客員教授 上川 孝夫

私は学部時代に哲学を専攻した。主にギリシャ哲学とドイツ哲学である。大学はかつてギリシャ哲学で著名な田中美知太郎や、西田幾太郎に師事した下村寅太郎などがおられたところで、倫理思想史の講義なども、西洋、東洋、日本それぞれについて開設されていた。一挙に世界が広がり、勉学意欲に掻きたてられて、神田の古本屋街を頻繁に回り、なけなしのカネをはたいて、哲学全集や思想史関係の本を買いあさったものだ。しかし結局私は、アリストテレスとヘーゲルの壮大な体系に心を動かされたようである。色々批判の対象にもなる二人だが、世界を対象にした思索の面白さと厳しさを存分に教えてくれた哲学者であったことは間違いない。

卒業論文提出後に審査委員の先生の一人から大学院に行かないのかと声をかけられたが、お金も自信もなく、社会に出た。しかし研究に挑戦してみたいとの気持ちが次第に募り、退職を決意。時はまさに高度成長から低成長への転換期。より現実に即した学問に関心を持つようになり、経済学を専攻したが、経済自体が複雑になるとも考えて、経営学、会計学、法律学、歴史学、科学技術論等々、手当たり次第に本を読み進めるうち、辿りついたのが国際金融という学問だった。国際金融も変転極まりない世界で、得体の知れないブラックホールのようにも思えたが、世界を体系的・論理的に捉えて見たいという、学部時代に培った気持ちにぴったりとあうような気がしたのである。

大学院でひとまず選んだ研究テーマは、当時多くの金融学者が取り組んでいた、近代金融の母国と言われるイギリスの金融史である。続いて欧州通貨統合と単一通貨ユーロの問題に関心は移ったが、やがてギリシャ危機が起り、ギリシャとドイツの関係が険悪になったとき、ドイツ哲学やギリシャ哲学に触れた学部時代の

ことを思い出し、一瞬、過去にタイムスリップしたような感覚に捉われた。なんとも皮肉なめぐりあわせというものである。

かつて、ある新聞社から取材を受けた際、「どうして哲学から国際金融への道を？」と聞か

れたことがある。私は即座に「ともに世界の本質を極める学問ですね」と答えたが、残念ながら、この話は記事にしてもらえなかった。後日、今度は『蛭雪時代』(旺文社)の編集部から、受験生向けに学問の面白さを書いてほしいとの話があった時は、わが意を得たり、とばかりに、哲学から国際金融への自らの歩みを書かせてもらった次第である。

イギリス金融史の研究では、夏休みや在外研究制度などを利用して、イギリス国立公文書館やイングランド銀行アーカイブズ(文書室)を頻繁に訪問した。イングランド銀行はイギリスの中央銀行であり、入館のチェックが厳しい。しかし、通い詰めるうち守衛とも顔なじみになり、途中から顔パスも同然となった。イギリスの公文書館などを何度も訪問して感じたのは、この国の公文書管理システムは、おそらく世界で最も進んでいるのではなかろうかということであった。最近わが国では公文書の管理をめぐる問題が噴出したが、公文書を適切に管理し、正確な記録を後世に伝えるということは、研究者のみならず、国の将来にとっても極めて重要なことなのである。

私の研究は結局、英ポンドからユーロを経て、ドル、円、人民元へと広がり、ひととおりの世界の主要通貨をカバーした著書等にまとめることができた。海外では、日英研究者による共同



研究の成果を収めた本が、イギリスの出版社から刊行された。アジアでも、中国の研究者らと共同で日中英の三か国語で本を出したが、その一冊は北京の清華大学出版社から出版されている。

横浜国立大学に在職した25年余りは、世界で危機や事件が頻発した時期とも重なる。日本のバブル崩壊に続き、90年代は欧州、メキシコ、アジア、ロシア、ブラジルなどで次々に通貨危機が起きた。ロンドン大学で在外研究に従事していた2001年は「9.11」。そして大恐慌以来の金融危機といわれる2008年のリーマン破綻当日は、講演の用事などで北京に滞在していた。しかし定年後も国際金融情勢はめまぐるしく変化しており、のんびりとしていられない。本当に私は定年を迎えたのだろうか、と思うことさえある。



英オックスフォード大学にて(2002年)

そう自問する時、しばしば私の脳裏に浮かぶのは、ゼミの教え子たちである。横国大時代の教え子は、概数で学部生380名、大学院生120名、計500名である。この中にはアジアや欧州からの留学生も多く、学部と院でやはり120名前後になる。ゼミはすなわち大学そのものなり、といつも学生に話して、徹底して学生主体のゼミを作るよう努めた。学問で重要なのは自主性・主体性であり、かつまた創造性である。ゼミ生もしっかりと受け止めて頑張ってくれたので、助かった。

大学は「知の継承と創造」の拠点である。人

類が営々と積み上げてきた知識を後世に伝えるとともに、未来を見据えて、新たな知を模索・創造する場である。こうした二重の役割があるからこそ、教育もまた上意下達ではなく、学生の関心や創造性を喚起するようなものでなければならぬのである。幸い、放送大学で面接授業とゼミを担当させていただく機会に恵まれた。哲学から始まった私の学問の旅はまだしばらく続きそうである。

CHAPTER THIRTEEN

British banks in the Euro-markets, and industrial finance 1965–1985

Takao Kamikawa

The purpose of this chapter is to examine the relationship between the Euro-currency business of the London clearing banks [LCBs] and British industrial finance. London's Euro-markets, following their emergence during the mid-1950s, grew rapidly. They differed considerably from traditional financial markets because the currency traded was primarily the US dollar, as opposed to the pound sterling. The Euro-markets can be divided into three: the deposit market (predominantly the interbank market), the Euro-credit market and the Euro-bond market. In these markets, there was no lender of last resort and the authorities had no direct control over the flow of funds. All the Euro-markets provided the LCBs with new opportunities to develop aspects of international banking, which they took up primarily through subsidiaries and thereby formed a new connection with British industry.¹

This chapter is a study of the structure of the LCBs' Euro-currency business and its relationship to British industrial finance. The 'Big Four' LCBs (National Westminster, Barclays, Midland and Lloyds) are considered in detail. The discussion begins by examining the changing structure of their deposits arising from the Euro-markets' rapid growth. Then their Euro-credit business is considered, in terms of the development by these banks of new connections with British industry, especially through the Euro-syndicated loan market. Finally, the focus moves to the banks' participation in securities business, particularly underwriting, in the Euro-bond market.

The changing structure of the LCBs' deposits, resulting from the remarkable expansion of the Euro-markets, is illustrated by their balance sheet data. Table 13.1 shows the structure of deposits held by the 'Big Four' by type and geography for 1980 and 1985; the striking feature was the growing importance of deposits placed at their international offices. The bulk of these liabilities consisted of time deposits, largely placed with the LCBs' international offices situated in the United Kingdom, where the largest Euro-markets in the world had become established. A time deposit in the Euro-markets was a short-term deposit

海外で公開された論文の一部(1997年)

2019年1月より面接授業が変わります！

大学設置基準（文部科学省令）や文部科学大臣の諮問機関・中央教育審議会の答申において、「試験の上単位を与えること」「評価に当たって客観性及び厳格性を確保すること」「講義時間に試験の時間を含めないこと」「シラバスに受講前の準備学習等について記載すること」などが求められています。本学においても正規の大学としてこれらの要請に適切に対応するため、面接授業について以下のとおり変更を行います。

- ◆ 総実授業時間（675分）を確保するため、原則として1コマの授業時間が**85分から90分**（最後の8時限目は45分）に変更となります。
- ◆ **授業時間とは別に成績評定のための試験・レポート等*の時間が設定**されます。
*筆記試験、レポート、論文、口述試験、実技テスト、その他担当講師の指定する方法により実施されます（シラバスに記載されているので、必ずご確認ください。）。
*フィールドワーク等、一部の科目については試験・レポート等がない場合もあります。
- ◆ 成績評価が放送授業、オンライン授業と同じく**合・否⇒ A～Eの6段階に変更**となります。

評定	評語	筆記試験の点数【目安】
Ⓐ	基準を大きく超えて優秀である。	100点～90点
A	基準を超えて優秀である。	89点～80点
B	望ましい基準に達している。	79点～70点
C	単位を認める最低限の基準に達している。	69点～60点
D	単位を認める最低限の基準を下回る。	59点～50点
E	基準を大きく下回る。	49点～0点

* D、Eは不合格。3回以上欠席の場合は、評価を行わない（「－」と表記）。
なお、原則として全講義出席を前提。

- ◆ シラバスに面接授業「**受講前の準備学習等**」について記載されます。
放送大学では、今後とも多様な面接授業を開設してまいります。

問い合わせ先 放送大学学園本部 TEL 043-276-5111(代表)

放送大学では放送教材の郵送貸出しを行っています！

【貸出しできる放送教材】

- (1) 学期の初めから単位認定試験期間終了まで
・履修している科目 ・再試験を受験する科目 ・特別講義
- (2) 単位認定試験期間の翌日からその学期終了まで
・全ての科目 ・特別講義

【貸出期間・貸出数】

- (1) 9日間、3巻以内。（神奈川などの本州在住の場合）
※上記の日数には、放送大学本部からの発送日及び返却到着日を含みます。

【貸出方法・郵便料金の目安】

「放送教材郵送貸出申込書」（15ページ）を記入の上、申込書記載の宛先にお送りください。
郵送方法は第四種郵便のみとし、送料は往復分とも学生負担となります。申込書に切手を貼付してください。
※第四種郵便（通信教育用）料金の目安
< DVD・CD 共通 > 1～2枚：25円、3枚：35円

また、ファックスおよびインターネットによる申し込みもできます。申し込み方法は、放送大学ホームページをご覧ください。

ゼミ・研究会紹介「地球科学ゼミ(有馬ゼミ)」

ゼミ生 金田 保男

〔地球科学ゼミ(有馬ゼミ)の概要〕

ゼミでは主に地形・地質等の屋外見学会(以下「巡検」という)を通し、自然の不思議について学習しています。三浦半島・真鶴半島・箱根火山・丹沢山地・東京武蔵野等を訪れ、地形、地層、断層、岩石、鉱物などを観察します。自然の美しさや奇抜な景観に驚き感動します。2018年は座学を含め延べ9回行いました。参加者は毎回15~20名程で、神奈川SCの他文京SC等近隣SCからの参加者も集まります。有馬先生には企画・資料収集・解説までお世話になり、この場を借りてお礼申し上げます。



有馬眞客員教授

〔「巡検」は未知との出会い〕

巡検では、崖や切通しなどの場所(露頭)の観察から地層の広がりなどを考えます。巡検に出かける度に「あれ?不思議だな」「えー!そうになっていたの」という発見があります。何でもない石にもマグマが固まったもの、堆積してまた岩石に戻ったもの、熱で生まれ変わったもの等、生き物のように感じます。

〔現地の解説〕

有馬先生の説明に加えて、有馬先生と親交が深かった研究者(博物館学芸員で実際に該当地域を観測した方々)による解説を受けることもあります。またゼミ学生メンバーにより地域の歴史、文化、植生、生物などの説明を受けることもあり楽しみです。

〔観察器具を用いた実習〕

- ・「クリノメーター」地層の特徴を調べるとき、走行(地層の連続している方向)と傾斜の測定実務を巡検時に教わります。
- ・「偏光顕微鏡」(学習センターで座学) 鉱物の観察「岩石薄片」(プレパラート)を顕微鏡で観察します。

〔ワイワイ楽しく反省会〕

私のように初めてのの方も参加できます。「地球科学ゼミ」は敷居が高いということはありません。(現在レポート提出等はありません)

反省会の時、参加者の皆さんに聞いた一言感想を紹介します。(2018/11/29)

- ①未知の世界→心臓バクバク
- ②前日申込み→来てよかった
- ③先生には「弥勒菩薩」イメージ
- ④閃きが多く楽しい
- ⑤現場を見ての実感が大切
- ⑥「プラタモリ」が楽しくみられるようになった
- ⑦地球科学が大好き
- ⑧地球の丸いことを少しずつ実感
- ⑨反省会が良かった→知己になれ良かった

☆参加資格

「学生教育研究災害傷害保険」の加入者を対象としています。巡検時は滑りやすい場所もありますので、未加入の方は「学習センター」で加入手続きをお願いします。(通常6年間140円)

秦野盆地「今泉湧水池」にて
(大井様提供) 2018/11/29

K-サポートからのお知らせ

○学習相談チーム

平成31年度1学期の学習相談は、4月13日から6月23日までの土曜日と日曜日、午後1時から午後3時50分、2階談話室の相談コーナーで行う予定です。(4月27日~5月5日はお休み)

予約は不要です。放送大学での学習に関して困っている点に限らせていただきますが、まずは気軽に、何でも相談ください。

○パソコンサポートチーム

パソコン初心者塾

・2月17日(日)13:00~15:30 「科目登録の提出」

※参加・サポートを受けるには、申し込みが必要です。学習センター1階ロビーK-サポート掲示板下に、用紙とポストがありますので、ご利用ください。

平成30年度学生バス研修旅行

K-サポート 村田 カズ子

従来から研修先は①日本のものづくりの現場②芸術文化の発信と二つのテーマを基本に学生バス研修旅行を重ねて来ました。今年度は①は福富所長の専門分野「金属や合金を中心とした材料工学」に合った近在の会社、京浜工業地帯の一角にある「リーテム東京工場」ほか②は近代建築の巨匠ル・コルビュ



ジェの世界遺産登録(2016年)された国内唯一の西洋美術館(本館)松方コレクションなどの美術鑑賞を目的に

10月11日(木)に大型バス1台、参加者48名(学生43名・学習センター5名)で実施しました。

かつて、ゴミの山からハエが大量発生して知られた江東区の“夢の島”は現在スポーツ施設ができて“緑の島”になっています。



今回見学先の「リーテム東京工場」(小型家電リサイクル)「(株)アルフォ」(食品廃棄物・食品ロス)2社は東京スーパーエコタウン事業の一環で城南島(人工島)1980年



住居表示開始に建設された工場です。大規模な大田市場もバス車中から一見することができました。

2020年の東京オリンピック「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」(携帯電話に使われている金属からメダルを作るプロジェクト)は日本全国周知の通りですが使用済みの家電(都市鉱山)には金、銀の量は世界一、銅(第二位)、白金(第三位)だそうです。宝物がいっぱいなのです。

「アルフォ」は百貨店、スーパーコンビニエンスストア、レストランなど特定業者からの食品、野菜屑、食べ残しの回収で「飼料原料の製造」「バイオガス

発電」に取り組んでいる企業です。運河を挟んで羽田空港は眼前で、発着時の爆音が耳を突き刺しました。昼食迄を城南島で過ごし上野公園に向かいました。



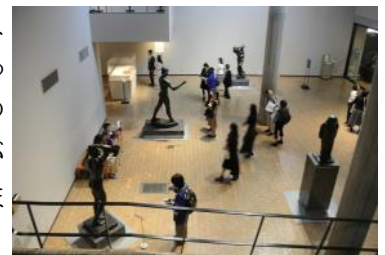
静粛な見学が基本の西洋美術館では今回のように対象物の説明に有料イヤホン(大学側の負担)を使用して各自が自由に見学をできたことは有り難かったです。世界遺産の建造物と絵画鑑賞用の二つのイヤホンを駆使し



て放送大学生ならではの学びができ、このことは城南島の工場見学と共に今回の研修旅行が有意義であったとアンケートに

反映されました。

企画、下見、本番と一年がかりのプロジェクトですがサポーターの一員としてやり甲斐があり、少しでも皆さんのお役に立てることが生き甲斐でもあります。学習センター、参加学生に心より感謝いたします。



有意義なバス研修旅行

小林 利江

研修旅行の目的地は、大田区城南島(東京湾埋立地)にあるリーテム東京工場とアルフォ第2飼料センターの2ヶ所工場見学と上野公園の国立西洋美術館である。

私は3年ぶりの参加で期待感が高かった。出発と同時にバス研チームからの資料を読んだり、村田さんご案内の名調子に聞き入っているうちにバスは早くも目的地の工場地帯へ。

工場では2班に分れ、各々の工場を1時間ずつ見学をした。私の入ったA班は、先ずリーテム工場で、小型家電リサイクルの金属製品を解体選別している実態の見学と環境問題の現状、リサイクルの将来等の研修をした。日本は都市鉱山大国と



言われ、金、銀の埋蔵量は世界1位、銅は2位、白金は3位と聞き、身近な所の資源の量に驚くと同時に、地域の回収ボックスを知り、協力して沢山の

人々に環境やリサイクルの大切さを伝えていく事の重要性を痛感した。五輪のメダル作成の計画はこれら金属で賄われる計画も相当進行中とか。次のアルフォ飼料センター見学では、スーパー、ホテル等からの生ゴミ、食品廃棄物を「油温減圧式脱水乾燥法」によって家畜の飼料を作る。その過程で発生するメタンガスを利用して、バイオガス発電を効率よく利用する実態を研修した。飼料化ラインと発電ラインを管理する人員が10名以内という事を聞き、工場規模の割に清掃や管理が行き届いている事に驚かされた。

昼食後のバス乗車移動中には、Kーサポートの方々より「松方幸次郎の生涯や松方コレクションの内容」「ル・コルビュジエと国立西洋美術館本館」「西洋美術館(常設展)」の作品についての詳細な説明があり美術館への期待感は一層高まった。

到着後の西洋美術館では、音声ガイド(建築物、展示作品)の2器を操作して、約2時間半が自由見学タイムである。1階ピロティよりロダン彫刻のある19世紀ホールへ進むと石柱によって支えられた吹き抜

け空間が2階、中3階へと繋がって広がる。三角形窓ガラスから差し込む柔らかな自然光によって独特な心地よさを感じる。これがル・コルビュジエの特徴かと納得した。更にスロープを昇り切った2階には、展示壁面の高低による絵画作品の大小を展示分けする壁面が広がり、いよいよ松方コレクションの14世紀から18世紀までのフロアーである。キリスト教関連の宗教画、古代の神話や歴史画が並び、17世紀のバロック美術では青いマントを纏った「悲しみの聖母」やみずみずしい写実的な静物画にはぐっと引き寄せられた。18世紀のロココ美術期の肖像作品も沢山あり、フラゴナールの風景画も印象に残った。この本館2階を一巡しながら各コーナーにある小部屋や照明ギャラリー、バルコニーの渦巻き型にル・コルビュジエの独特な建築様式を感じた。

展示は新館に移り19世紀のフロアーでは大型作品も混じり、クールベ、ルノワール、ピサロ、ゴッガン、マネ、セザンヌそしてモネの作品が一室にまとめられ印象派絵画を存分に堪能する事ができた。最後の20世紀絵画では、会場中心にミロの真赤な太陽をイメージした作品と出会いピカソの2点の作品の感動と共に、集中していた心に解放感を味わいながら会場を後にした。

先人の熱意と尽力によって文化遺産が今日在る事を想う時、私達はこれら遺産を如何に次世代に保存・継承していくかが問われる事を痛感した。その任の一部を強く意識しながら暮れなずむ横浜に着き、各位の方々と感謝の言葉を交わし合いながら散会した。



観音崎ウォーキング (2018_11_03(土)、曇り)

濱田 嘉昭

海と自然と伝説の馬堀海岸から観音崎へ

馬堀海岸 近くの公園 全員集合 9時半に
出発前に“おいら岬の 灯台守は…” 何故この曲？
その答えは 最後わかる まずはしっかり 準備です
かたく縮んだ 腕腰足をリズムに合わせ 柔らかく

10名ごとの 班に分かれてリーダーの下 行動す
リーダーさんは 筋入りベテラン 解説準備 万端だ
センター名入り 法被羽織りて 宣伝効果 抜群よ



海岸に沿う「うみかぜの路」風少し吹き 冷たいよ
3段構えの 護岸ブロック 高潮備え 整備する
太公望は 釣り糸垂らし 何を狙うか ヒラメあり
岸に打ち寄す プラゴミありて 地球の未来 心配す



そもそも馬堀 どういう意味か 馬頭観音 訪ねよう
上総国から 浦賀水道 泳いで来たる 荒馬が
喉が渇いてこの地を掘れば あらあら不思議 清水が
こんこん湧きて「蹄の井」とは 名付けられたり なるほどね



道を戻れば 旧水道のトンネルあり フランスの
技師ヴェルニーが 市内初めて 水道管を 敷設した
豊富な湧水 造船所まで 7キロkm運ぶ 軍用に
この地域には 至る所を ヴェルニーさんが 名を刻む

製鉄所の 建設任務 27歳の 青年に
製鉄所で 焼かれた煉瓦 観音崎の 先端に
フロランと共 日本最初の 石油式での 灯台を

桜並木と 赤レンガの 塀 走水の 水源地
美味清浄で ミネラル豊富 一日ごとに 千立方(メートル)
喉を潤し 疲れ直ちに 回復快癒 素晴らしい



伊勢町観音 別名ありて ぽっくり観音 信ずれば
人に迷惑 かけずに一人 ぽっくり往けて 理想なり
その先破崎 緑地からは 東京湾が 一望で
丹沢の峰 霊峰富士も 運が良ければ 拝めます

東征の途次 ご座所を設け 軍旗を建てた 日本武尊
尊を慕う 村人たちに 己が冠 授けたり
尊き冠 石櫃収め 土中に埋め その上に
社を建てり そが走水 神社の言われ 起源です



いざや尊が 上総へ渡海 進軍せんと 船出せば
突然嵐 進退窮(きわ)む 弟橘(媛)の 詠みし歌:
「さねさしさがむのおぬにもゆるひの ほなかにたちて
とひしきみはも」

海の怒りを 我の命と 引き換え鎮めん 入水せり
現代日本 女性の皆さん 弟橘に なれますか？

(横須賀)美術館の 屋上庭園 海を眺めつ 昼飯を
トンビに注意 フェンスを背にし 緑の森見て 食べましょう
今日文化の日 入館無料 モダンアートの 特別展
余った時間は 美術鑑賞 頭と身体 リフレッシュ

午後はいよいよ 広い公園 見どころ多い 散策だ
戦前までは 民間人の 立ち入り禁止 軍事基地
まず三軒家 砲台廃墟 大砲学の レッスンを



花の広場とうみの子とりで 切り通し懸ける めがね橋
黄色で目立つツツブキの花 紫色の 朝顔も
この辺りから 地層傾斜が 顕著になりて 見事です
岩を巻き込み 大樹根を張り 自然と生命 力の美

6万人の 戦没船員 霊を慰め 碑建設
平和の願い 失せる青春 せめて人魚と 楽しんで

第3砲台 見晴らし台で 渡邊さんの 大講義
深くて狭い 速い水流(毎秒2m) 浦賀水道 目の前に
3つの海保 お台場ともに 如何に建設 できたのか
潜水艦の 侵入如何に 探知できるか わかります?
兎にも角にも この軍事基地 実戦至らず 良かったね



くねって下がる スリル満点 坂道行けば 最終の
観音崎の 我が国初の 洋式灯台 到着す
150年 光絶やさず 海の安全 守り切る
映画「喜び 悲しみも 幾年月」の ロケ地です
解散前に 皆で最後に 大きな声で 合唱を

全員無事に 踏破完了(約2万歩) 学びも多き ウォー
キング
学生仲間 地域参加者 おしゃべり交流 深まった
企画の皆さん コースの選定 慎重下見 ありがとう
参加の皆さん またこの次に お会いしましょう ご苦労
さん

横須賀ウォーキングに参加して

戸塚区在住 高後 楓

ウォーキングの参加は二度目です。放送大学生の祖母と、母と高校生の妹の4人で参加しました。11月3日(土・祝)の朝、馬堀海岸駅最寄りの公園に集合しました。1班から6班までグループごとに分かれましたが私達のグループは1班でした。オリエンテーションと準備体操を行い、それから出発、ウォーキングスタートです。

馬堀海岸の海沿いを通過し、日帰り温泉施設「湯楽の里」辺りから馬頭観音へ向かいました。

その後、トンネルを通り抜け、走水神社に着きました。階段を上り小さな三体の観音様(パワースポット)に内緒のお願い事をしました。

神社から再び海岸沿いに歩き、横須賀美術館へ向っていると、何かイベントっぽい音が聞こえて来ました。横須賀美術館では文化の日限定で入場無料のイベント開催中だと言うことを知りました。

横須賀美術館到着後、美術館の上の広場でお昼を食べ休憩を取りました。横須賀美術館には前も来たことがありました。

それからまた午後のウォーキングが始まり目的地である観音崎灯台へ歩きました。

目的地の灯台へ向かう最中、再びイベントっぽい賑やかな音が聞こえてきて気になりました。

山の中を進み観音崎灯台到着、一班は展望台付近で「灯台のうた」を歌唱してから解散しました。

解散後は妹と灯台に上り展望台から幅広い眼下に広がった海を眺めました。はるか下で手を振る祖母の姿も見えました。灯台の階段は狭くてとても歩きづらかったです。

帰りは観音崎灯台からは山を下り観音崎公園バス停へ向かいました。

そこへ向かう途中、観音崎の海岸沿いのイベント会場を見たら、ウォーキング中に聞こえた賑やかな音は毎年文化の日に行われる観音崎フェスタだと分かりました。お祭りはすでに終わって後片付けをしていました。

私は今回の横須賀ウォーキングの中で馬堀海岸の海沿いの景色がとても気に入りました。



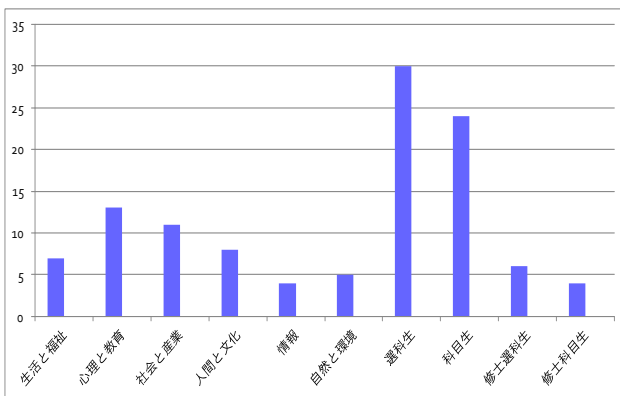
平成30年10月 学生生活に関するアンケート K-サポート機関紙編集チーム

9月22日(土)神奈川学習センターの学位記授与式には81名の卒業生が集いました。学習センターだより編集部では、前年度同様のアンケートを実施し63名からの回答があり回収率は78%でした。

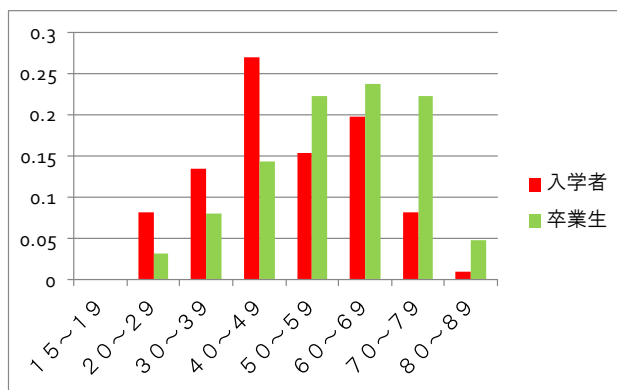
また、10月7日(日)入学者の集いには、新入生160名が参加、111名から回答を得て回収率は、69%でした。

1. 入学者へのアンケート(一部項目は、卒業生のアンケートと比較しています。)

入学者アンケートは、学生種別(下図)です。全科生、選科生、科目生の割合は、49%、28%、23%で、例年と同様でした。コースでは、昨年多かった心理と教育が減少し、社会と産業が多くなっています。

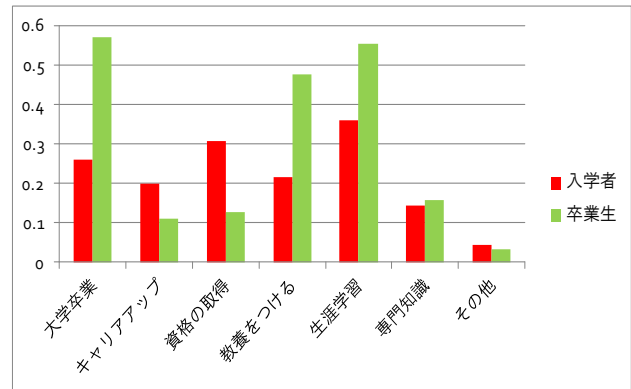


次に、年齢構成です。(下図)20代から80代までの方参加しています。入学者では、今回40代が大きなピークとなり、60代が増加。20代以下が大きく減少しました。卒業生については、60代がピークでした。

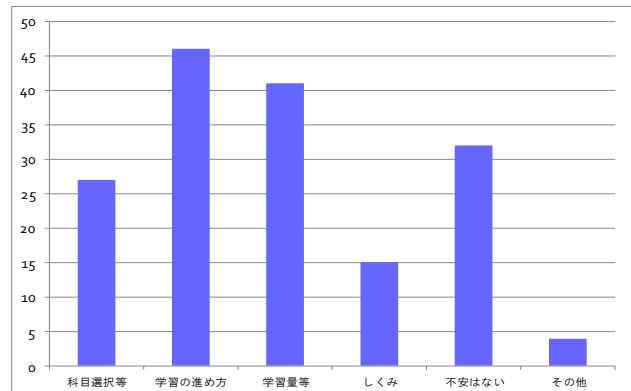


入学動機を見てみましょう。例年に較べて、卒業生は、教養をあげる方が目立ち、入学者は、資格の取得を選択する方が多く大学卒業を選択する方が少ない傾向がありました。入学者に占める全科生の割

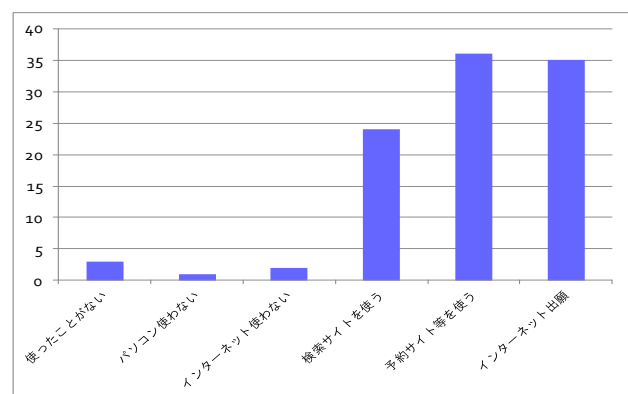
合が減っていないので、全科生の入学動機が変化している可能性もあります。



入学者が、どのようなことに不安を感じているかを聞いた質問です。前年より、科目選択や学習のすすめ方の割合が小さくなりました。勉強慣れしている方が単位をいかにとって行くかに関心になっているように見え、年齢層、入学動機とも整合性があるように考えられます。



インターネットの利用等に関する項目です。年を追うごとに、利用される方の割合は高くなっています。今年も、また、一段と利用されない方が減少しました。



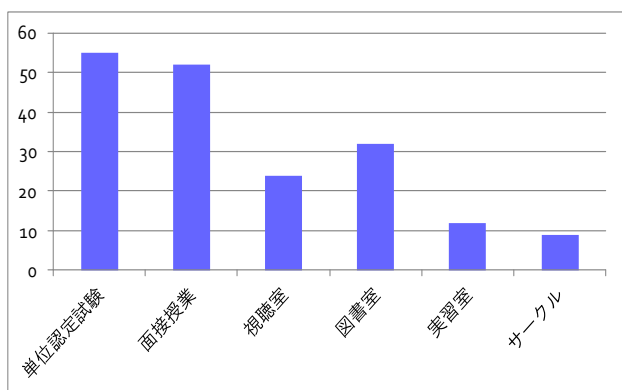
○大学、サークル、その他(自由記入欄)

- ・先生方(所長、同窓会長、客員教授)の話が素晴らしかった。(9名)
- ・客員教授の話面接授業受講の参考にする(4名)
- ・サークルがあることがわかってよかった(2名)
- ・入学者の集いは、「入学式」だったので驚いた、学ぶ意欲がわいてきた。(3名)
- ・多くの入学者がいること、諸先輩が意欲的に学んでいることを知り、励みになった。(6名)
- ・オリエンテーションは、参加者の気持ちになって、入学者が知りたい内容を理解できるように説明してほしい。(6名)
- ・地上波とケーブルテレビの放送が無くなったのが残念。復活を希望。(2名)

2. 卒業生へのアンケート(卒業生のみ質問項目)

所属コース(専攻)は、心理と教育、人間と文化の割合が高く、情報も増えたのが特徴でした。

学習センターの利用については、利用形態の幅が広がる傾向があります。図書室が視聴室の利用を越えていることや、実習室利用の割合が大きくなりました。



次に、卒業生が放送大学の授業やシステムと、放送大学での交流等についてどのように感じているか、11項目で満足度を伺ってみました。

面接授業、放送授業とも授業に対する満足度が高い傾向(とても満足と回答された方が多い)は、例年通りです。個人個人の評価のばらつきは、若干増加しているようにみえます。また、ここ数年の変化してきた傾向が顕著になってきて、卒業研究や、交流、サークル、学習センターのサービスは、評価のばらつきが大きくなり、二極化してきています。

○印象に残った放送授業

様々な授業があげられました。多かったものは、西洋芸術の歴史と理論、錯覚の科学、色(と形)を探究する、各3名。日本古代中世史、心理臨床とイメージ、心理学概論、各2名。高橋和夫先生ほか、先生の名前を挙げて記載される方もいました。(高橋先生の科目は、合計で3科目ありました)

卒業生の多い心理学系の科目と、哲学や美術・音楽、文学、歴史関係の授業をあげる方が目立ちました。

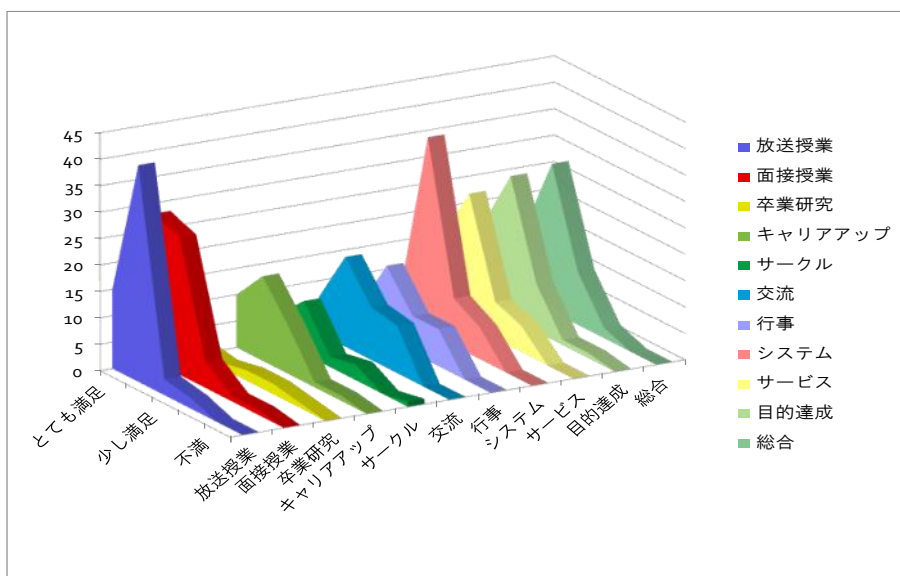
○印象に残った面接授業

多かったのは、心理学実験の1. 2. 3で、4名。ただ、1. 2. 3. という記載なので、3つの科目を別々に考えると多くないといえるかも知れません。

また、川松正孝先生の発酵食品の授業をあげた方が、3名。社会心理学入門(森津太子先生)、中嶋真也先生の古代文学の授業、中島悦子先生の現代詩の鑑賞の授業、木を見る西洋人森を見る東洋人(村本由紀子先生)をあげた方が、各2名でした。分野としては、文学、歴史、美術、文化人類学の授業をあげた方が多く、グループワークや、実験実習系の授業、センター外の授業、他の学習センターの授業があがっているのが特徴でした。

○自由記入欄

- ・再入学します。(同様4名)
 - ・勉強が辛かった(同様2名)
- その他、神奈川学習センターの雰囲気癒やされた。とてもよい学びができた。学生生活を楽しめた。授業を充実(開講する講座と開講数を増やす)してほしい。サークルの事をもっと詳しく知りたかった。面接授業で地方の旅ができた。などでした。



学生サークルからのお知らせ

○スペイン語研究会

- ★目的:スペイン語日常会話習得とスペイン語圏の歴史・文化を学ぶ会。
- ★活動:月二回(第1・第3木曜日)、第1木曜日;日本人講師による初級,第3木曜日;外国人講師による中級。
- ★会費:月1,000円。
- ★内容:1時限・講師による日常会話習得、2時限・会員又はゲストスピーカーによる研究発表・講演。テーマはスペイン語圏の歴史、文化(映画他)など。
- ★その他:講師・発表者との親睦会。
- ★連絡先:会長・講師 肥後 照雄
電話:080-2049-3523、
メールアドレス: t_higo@cb3.so-net.ne.jp

○放大かながわレク・サークル

- ★サークル活動:放送大学生との「仲間作り」とウォーキング等の「健康づくり」
- ★例会:2ヶ月に1回(含、映画鑑賞会)
- ★ウォーキング:2ヶ月に1回、「東海道五十三次」実施中。名所旧跡文化施設等も対象。
- ★その他観劇、観光、映画、美術鑑賞等。
上記の各種活動はいずれも自由参加。
—会員募集中(随時申込・受付)—
- ★問合せ:島田 義治 Tel 090-3907-8384
-mail simada.yosiharu@coral.plala.or.jp

○中国語学習会

- 学習日:原則 第1、第3日曜日
(詳しくは学生掲示板ポスター)
- ★10:00-12:00 中級クラス: 文法、表現力向上、自由会話 講師: 告旭平先生
- ★13:00-15:00 入門、初級クラス: 発音基礎から簡単な表現を習得 講師: 李春霞先生
参加はどの時間帯でも可能です。
- ★会費: 1ヶ月2000円2ヶ月分前納。
- ★学習以外の活動: ハイキング、中国映画鑑賞、研修旅行など。会員相互の親睦を深める企画多々あり。
- ★問い合わせ: 和田 tel: 080-3552-2497
E-mail: snuf.708w@ezweb.ne.jp

○人間学研究会

- ★毎月の例会で会員が卒業研究、旅行経験等を発表
例会予定 : 神奈川学習センター 於
・2月9日(土)13:00~
「人工知能、AIの基盤、半導体とは」
・3月10日(日)総会
- ★会誌「せせらぎ」29号を発行
- ★散策・植物園美術館巡り等の行事、懇親会、
会員募集中
- ★お問い合わせ :
小林鋭子 E-mail: d52n66su_yoof@ybb.ne.jp
佐藤義春 E-mail: yoshi.l.chie@yd6.so-net.ne.jp

○うえるかむKanagawa

- 私たちは英語を楽しみながら学んでいるサークルです。
- ★例会は毎月第2、第4水曜日です。(試験月等は変更があります。)
- *Benny Class(3クラス) 10:15~12:30
- *English songs 13:15~13:30
- *Group study 13:30~15:30
- ★そのほか、うえるかむ名画座、ゲスト講演会などを開催しています。
- ★問い合わせ 片野眞明 090-4714-8260

○ダンスサークル(社交ダンス)

- ★場所:神奈川学習センター第7講義室
- ★曜日:第2・第4火曜日 *第1・第3火曜日自主練習
- ★時間:午後2時~4時 講師:菊島弘明・ユリ子
- ★会費:1か月 1500円
- ★活動内容:社交ダンス(モダン、ラテン)の学習(ダンスパーティーで踊れるレベルに)
ダンスはスポーツです。健康増進(特に、姿勢が良くなる)、ストレス解消に、楽しく踊りませんか!! 人生がより明るくなります。不定期ですが、1泊での実習旅行も実施しています。初めての方も楽しく踊っています(初心者、歓迎!)
- また、全科履修生の方は30時間のレッスンで、体育実技1単位を取得できます。
- ★連絡先:中村 健 tarumakan0904n@gmail.com

○神奈川放友会

豊かで爽やかな学生生活を共有すること目的に「学び」と「触れ合い」を柱とする幅広い活動を展開し160余名の会員がいるサークルです。

★学びの場の活動

○例会:2月10日(日)神奈川学習センター
第3講義室

★触れ合いの場の活動

○お花見・卒業終了祝賀会:3月31日(日)

★毎月の活動

○俳句の会、書に遊ぶ会、女性の会、詩游会、
音楽部

★問合せ:吉岡 淳 info@kanagawa-hoyukai.jp

○資格取得研究会

看護・福祉分野のキャリアアップや進学・就職を目指す集まりです。各種資格(心理系含む)の取得と放送大卒業を目的とする方が多い。内容は、情報交換が中心。例会予定は次の通り

・2月16日(土)10:30～(予定)

・3月16日(土)10:30～(予定)

・4月7日(日)16:00～(予定)

★会費:¥500(1年間)

★ホームページ…<http://shikaku.yumesora.net>

★お問い合わせ…080-5546-7913(はこざき)

○韓国語同好会

★月例会予定日 土曜日(原則月2回)

① 10:00～11:30 初級クラス

② 11:30～12:00 ミーティング(全員)

③ 12:00～13:30 中級クラス

④ 13:45～14:45 自主学習 短編小説読書
(「昔話で学ぶ韓国語」)

★講師 李明淑(イ・ミョンスク)先生

★初めて韓国語を始める方へのサポートを強化しました。

★入会随時、見学大歓迎です。

★会費 1ヶ月2,000円 3か月前納

★問合せ 神奈川サークル協議会ホームページ
<http://kcc-ouj.net> からメールフォームにて
お問い合わせください。

○神奈川合唱団

♪♪音楽体験を通して大学生活を豊かにする
合唱を楽しんでいます。♪♪♪

★合唱団は、学校の行事に参加しています。

・入学者の集い(4月、10月)

・卒業生の集い(3月16日)

・学位記授与式(NHKホール)(3月23日)

・フェスタ・ヨコハマ(9月)

★練習曲:☆学歌、☆いのちの歌、☆大地讃頌
☆群青、☆My Way

★場所:大岡地区センター 音楽室2F

★日時:毎月第1・第3水曜日18:00～20:30

★入会申込み・見学・問合せ先
馬場信一

shinichi-36820-baba@extra.ocn.ne.jp

神奈川同窓会だより

神奈川同窓会は、放送大学に学んだ「誇り」を共有し「母校意識」をもって大学のために、また、「プランインターナショナルジャパン」や「あしなが育英会」を通じて寄付金を集めるなど、社会貢献活動を進めています。毎月行う「弘明寺サロン」や「卒業・修了祝賀茶話会」、フェスタでの「お抹茶」と「ホームカミングデー」の開催しています。

ウェブサイト: <http://hatoh.net/>

「波濤ネット」または「放送大学神奈川同窓会」で検索ください。

春のフェスタのご案内

日時 2019年2月16日(土) 第1部:13:00～14:30
第2部:15:00～16:00 会場 神奈川学習センター

第1部 特別記念講演会

演題 100歳時代の問題解決—準備と過程—

講師 遠山 紘司 放送大学客員教授

第2部 茂木ゼミナール音楽会

指揮 茂木 一衛 放送大学客員教授

OUJ神奈川学習センターだより編集部

家田、伊藤、入江、遠田、笠井、吉川、木下、筈崎、三国
(50音順、以上、K-サポート機関紙編集チーム)

垣谷(K-サポート事務局)

早田(学習センター事務局)

平成30年度 神奈川学習センター開講ゼミ・研究会一覧

●神奈川学習センター客員教授開講ゼミ

教員名	ゼミ名	活動内容	開催等	開催日	連絡先	備考
有馬 眞	地球科学ゼミ	神奈川県には、箱根火山、丹沢山地、三浦半島など、変化に富んだ地形と多様な地質で構成される多くの地域があります。地球科学ゼミは月1回(原則第3水曜日)、これらの地形・地質を対象に野外見学会(巡検)を開催しております。初めての方々も参加できるやさしい内容といわぬ見学会を開催するよう努めています。	原則 月1回	4/24、5/29、6/26、7/18、 9/21、10/26、11/29、12/11	arima@ynu.ac.jp	所外 有
上川 孝夫	上川ゼミ	金融や国際金融を中心に、世界経済や経済学について学びます。一見難しそうな学問ですが、外国為替やマーケットの話など、基礎から学びます。ドルや欧州単一通貨ユーロ、円や人民元など、話題性の高いテーマについても取り上げます。また、日本銀行や東京証券取引所の見学会なども予定しています。	原則 第3土曜日	4/21、5/19、6/16、7/21、 8/25、9/15、10/3、11/17、 12/15、1/19、2/16、3/16	kamikawa@ynu.ac.jp	所外 有
杉田 正樹	哲学カフェ	「哲学カフェ」をやっています。参加者からその都度問題を出してもらい、それらについてみんなで議論するというものです。調べれば分かるような問題や、専門的な問題ではなく、身近なところで日頃不思議だと思っていることを論じます。人の話をよく聴くこと、よく考えることが条件です。黙っていることももちろんOKです。	原則 第4土曜日	4/28、5/27、7/1、8/25、 9/29、10/27、11/24	msugita@kanto-gakuin.ac.jp	
角 洋一	角ゼミ	角ゼミでは、小職の担当面接授業「構造物の強度と安全性」にも関係するテーマとして、明治・大正期を代表する物理学者・随筆家である寺田寅彦の随筆を読むことを企画しました。彼の随筆で取り上げられる力学と自然災害、大学と教育などのテーマは、現代に生きる我々も熟考すべき普遍的課題でしょう。 【テーマ】寺田寅彦の随筆を読む - 自然現象と災害、海の自然、科学と人間そして社会 -	原則月1回 木曜日	4/12、5/17、6/14、7/12、 8/9、9/13、10/18、11/15、 12/6、1/10、2/14	sumi@ynu.ac.jp	所外 有
高橋 邦年	英語基礎ゼミ ナール	これまで英語を習ったことがなかった、習ったけどほとんど覚えていないという学生さんいらっしゃいます。そういう学生さんを支援しながら「やさしい英文法」を勉強したいと思います。	原則月1回 土曜日	4/28、5/26、6/16、7/14、 8/25、9/15、10/13、11/17、 12/22、1/12	takahak18@gmail.com	
種田 保穂	種田ゼミ	動物学に関する様々な面白い話を紹介しています。そのほか不定期に探鳥会や、磯の動物の観察会を行っています。博物館、水族館、動物園などにも出かけて行きたいと思います。また、年に一回は合宿のゼミを行いたいと思います。	原則 月1回	4/17、6/19、7/18、9/19、 10/24、12/15、12/16	taneda-yasuho-pj@ynu.ac.jp	
茂木 一衛	茂木ゼミ	ヨーロッパのクラシック音楽の歴史を辿り、その時代に生きた作曲家の音楽作品を器楽と声楽のアンサンブルで演奏し、また鑑賞し学んでいきます。歌と楽器でのユニークな編成で楽しみます。自分のできるパート、やってみたいパートを自由に選んでご参加ください。 ・練習・鑑賞曲 バッハ、モーツァルト、シューベルトなどの名作から	原則 月2回	4/13、4/15、5/11、5/25、 6/14、6/29、7/8、7/20、 8/10、8/28、9/9、9/19、 12/6、12/13、1/8、1/17、 2/10、2/14、2/16、3/10、 3/14	kmoteki@nifty.com	

●本部客員教授開講ゼミ

教員名	ゼミ名	活動内容	開催等	開催日	連絡先	備考
遠山 紘司	遠山ゼミ	ものごとをまとめる力、発表する力そして「討論する力」を身に付けることを目的としたゼミです。ゼミ担当者は自分が興味ある問題を探し、解決するまでの過程を考えて発表します。その後、全員で問題の捉え方、解決策について討論します。ゼミの担当は1年に1回程度です。	原則月1回(第 3又は第4木 曜日)	4/26、5/24、6/21、8/23、 9/20、10/18、11/15、12/13	kmymt@olive.ocn.ne.jp	

●元客員教授開講ゼミ

教員名	ゼミ名	活動内容	開催等	開催日	連絡先	備考
浅野 幸弘	浅野ゼミ	経済・金融・証券の分野で興味深かつ重要と思われる本を取り上げて輪読します。毎回担当者が本の内容をまとめて報告、質問などがあれば教員が補足説明し、その後、報告をベースに参加者全員で議論します。2018年度前期はプリニオルフン・マカフィー(村井章子訳)『ザ・セカンド・マシン・エイジ』を使います。	原則 第2木曜日	4/12、5/10、6/14、7/19、 8/9、9/13、10/11、11/8、 12/13、1/10、2/14、3/14	asano-yukihiro-rc@ynu.ac.jp	
影井 清一郎	科学の散歩道 研究会	身近な物理・生命・社会等の現象を数学・物理学・工学(コンピューター)の切口中で自由闊達に議論し、結果を踏まえて自らの学びに取り入れられます。9月からは放送大学の物理・化学系科目が難しく感じられた方へ「量子論に至る道しるべ」と題して、高校数学の復習から始め、量子論を理解するための道しるべを始めます。奮ってご参加ください。	原則月1回(第 3又は第4木 曜日)	4/21、5/19、6/16、9/15、 10/20、11/17、12/15、2/16	kagei@ynu.ac.jp	
藤原 一繪	植生研究会	主な活動は観察会と報告会です。観察会では、植物や植生の見分け方、特徴の解説、植物に関する指導などを受けられ、自身で疑問を持つこと、考える力をつけてゆきます。 また、観察会のまとめを年に1度は発表し、まとめ発表の力をつけます。教養学部「自然と環境コース」の植物・植生や環境に関する科目に興味がある方や、卒業研究を目指す方にお勧めです。	原則 第2木曜日	4/12、5/17、6/14、7/12、 9/13、12/13、3/14	syokusei@yakatsu.org	所外 有

●元放送大学教員開講研究会

教員名	ゼミ名	活動内容	開催等	開催日	連絡先	備考
柏倉 康夫	三無会	「三無会」は放送大学情報学の修士修了生を中心に、現在の情報のありかたや、コミュニケーションの現状を研究する会です。年1回機関誌(審査付き)を発刊。投稿を受け付けています。また、「放送大学情報化社会研究会会報」を年4回、会のMLにて送信(ホームページで一般公開)しています。6月に総会・研究発表を開催。	不定期開催	6/30	miyako.f71417@jcom.zaq.ne.jp	

●神奈川学習センター開講研究会

教員名	ゼミ名	活動内容	開催等	開催日	連絡先	備考
田口 一博	放送大学ガバナ ンス研究会	政治学の天川晃ゼミを母体が発足し、会員約百人。毎月の研究会では会員の研究報告と原書講読(現在 Lane "State Management" 稲継裕昭 訳)のほか研究者をお招きして報告会を行っています。	原則 第3土曜日	4/21、5/19、6/16、7/21	jkaz@nifty.com	

神奈川学習センターからのお知らせ

● 2019年4月入学生 ただいま出願受付中！

2019年4月入学生を募集しております。お友だちや知り合いの方も神奈川学習センターと一緒に学びませんか？

【対象学生】教養学部(全科・選科・科目) 大学院(修士選科・修士科目)

【出願期間】(第1回) 12月1日(土)～2月28日(木)迄 (第2回) 3月1日(金)～3月17日(日)迄

【資料請求】募集要項を無料配布中です。お気軽に神奈川学習センターまでご連絡ください。

● 学部・大学院の単位認定試験の問題、結果及び解答

【問題】 2019年2月上旬頃にシステムWAKABAの学内リンクから閲覧可能になります。

【結果】 2019年2月下旬頃到着する成績通知書により通知します。

【解答】 2019年2月下旬頃主任講師の了承があった科目は解答を、ない場合は解答のポイント等を、問題と同様にシステムWAKABAにて掲載。

※ 問題、解答とも、神奈川学習センター図書室で約1年間閲覧できますが、非公表のものもあります。

● 卒業者の集い・学位記授与式のお知らせ

卒業者の集いおよび学位記授与式が下記の通り開催されます。

【卒業者の集い】 3月16日(土) 開催場所:神奈川学習センター

【学位記授与式】 3月23日(土) 開催場所:NHKホール

● 公開講演会を開催します

【講師】 福田 幸男 先生(横浜薬科大学教授・放送大学客員教授・横浜国立大学名誉教授)

【テーマ】 記憶の謎を探る ―記憶の心理学入門―

【日時】 2月10日(日) 13時～14時45分

【講師】 橋本 和幸 先生(了徳寺大学准教授)

【テーマ】 臨床心理学の技法を用いた話の聴き方

【日時】 2月16日(土) 13時～14時45分

※ 参加希望の方は神奈川学習センター事務室(TEL:045-710-1910)までお申し込みください。

● 神奈川県立国際言語文化アカデミアとの連携講座を開催します

神奈川県立国際言語文化アカデミアと神奈川学習センターで連携講座を開催します。詳細はHP及び掲示にてお知らせしますので、皆様ふるってご参加ください。

【日時】 3月10日(日)

【会場】 神奈川県立国際言語文化アカデミア(JR根岸線本郷台駅)

お問い合わせ: 放送大学神奈川学習センター

電話045(710)1910 (月曜日・祝日等を除く、9時10分～17時40分)